

## 参加者の声④

# 公文書館等の重要性をどのように認知させるか

## —総合討論から—

富山県公文書館 早水 康雄

### 1 教育機関との連携—学校教育・生涯教育・社会教育と公文書館

研修の中で、学芸員や図書館司書資格取得の授業の一環として大学生を受け入れ、学生を対象とした資料の利用講座を企画しているなどの大学との連携や、小・中・高校の総合学習や社会科・歴史の授業でのアーカイブズの活用例（企画展のパネルの貸し出し、資料集の作成など）が紹介された。

このような教育機関との連携は、施設利用者数の増加をもたらすことにとどまらない。歴史資料や行政資料によって地域の歴史が明らかになり、地域行政の検証が可能になることを学生たちに伝えることにより、アーカイブズの重要性や意義を社会に認知させていくことに繋がるのではなかろうか。教育機関との連携のためには、利用しやすい環境作りや資料の教材化が必要であり、公文書館活動の中できちんと位置づけて取り組んでいくことが大切である。

### 2 類縁機関（図書館・博物館など）との連携

図書館・博物館と公文書館の活動においては、「棲み分け」という大きな問題があるものの、協力関係を築きながらアーカイブズの情報を発信していくことが求められる。「棲み分け」については、公文書館の設立経緯が様々であり難しい議論になるが、大濱理事は、公文書館がキーステーションとなってどのように調整していくかは今後の重要な課題となると指摘された。

類縁機関との協力事例として東京都公文書館の三館合同（都公文書館・都立中央図書館・大江戸博物館）の企画展示について紹介された。この企画展示では、三館の独自性をどのように出すかという苦労もあったが、公文書館の認知度を高める効果があったという。類縁機関との連携は、歴史資料の保存や活用に役立っていくことが期待されるが、あらためて「公文書館とはどのような機

関なのか」という点を、公文書館職員が自覚する必要があるのではなかろうか。

### 3 行政職員へのアピール

公文書館の認知度を高める場合に、一般市民への働きかけとともに公文書を作成する行政職員や公文書移管元などへの「内向きのアピール」も大切であるという意見が数多く出された。「公文書館は公文書の単なる保管庫」という認識、公文書館への公文書移管に対する不信感は今なお少なからずみられるようであるが、こうした意識を取り除くことが公文書館にとって重要な課題である。

行政職員への働きかけは容易なことではないが、公文書館に公文書を移管することで得られるメリットや公文書館側からのサービスの提供についてきちんと説明していくことが大切であるという意見もあった。アーカイブズの持つ資産としての価値や情報を行政職員に向けても発信していき、一人でも多くの理解者を増やしていくための取り組みが今求められている。

### 4 公文書館相互の連携

グループ研究の発表の場において、全国の公文書館相互が連携してWebサイトを利用した共通テーマでの企画展示、実務の情報交換、所蔵資料の目録掲載などの活動を進めてはどうかという意見が数多く出された。地域の実情に即して公文書の保存・利用の実績を積み重ねてきた各公文書館の「知のノウハウ」を情報交換していくことは、今後大いに検討されるべきことであろう。

Web展示については、大濱理事より「何を展示しますか？」という厳しい問いかけがなされた。公文書館の設立経緯が多様であること、記録に残されている情報が様々であること等をふまえて、どのような資料が展示に必要であるのかという議論が大事になってくるという指摘であった。

### 5 まとめ（全体の感想）

グループ・全体討論を通して、公文書館の存在意義や公文書館活動への理解を拓ける工夫などについて、あらためて考えさせられることが多くあった。公文書館職員がアーカイブズに対する認識や問題意識を深め、社会に果たすべき役割を自覚することが今求められていることも痛感した。公文書館を取り巻く環境は依然として厳しいものがあるが、討論の場で紹介された各公文書館の取り組みを参考にしながら今後の活動に活かしていきたいと思う。